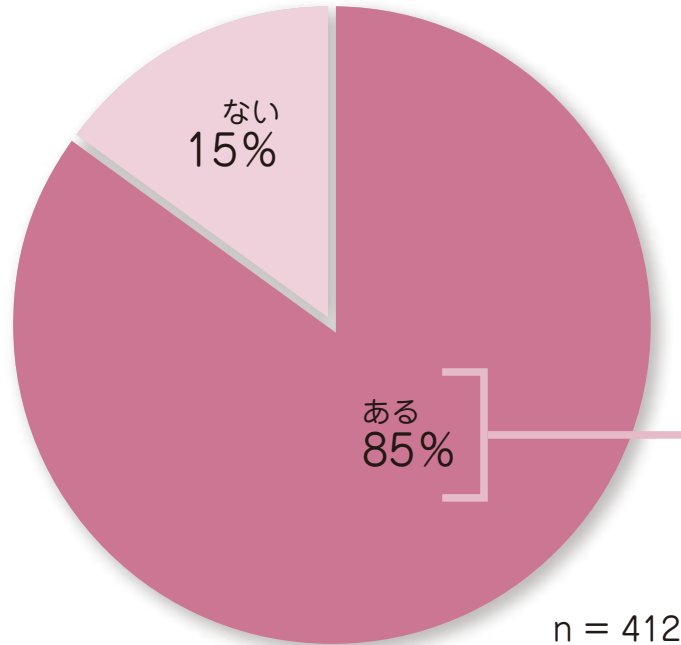
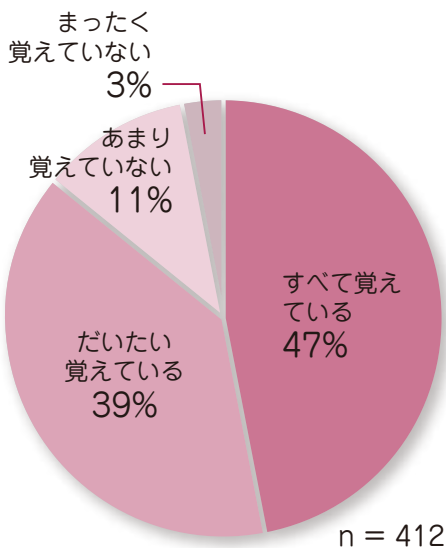


Q. 処方されている薬について、 自分で調べたことはありますか？



処方された薬について“調べたことがある”と答えたのは85%と、多数の患者さんが関心を持っていることがわかりました。なかでも、その情報源を“インターネット”とした方が約8割。自分で調べたほうが気兼ねしなくてよいという意識があるのかもしれませんが、また、自分が飲んでいる薬の名前を“すべて覚えている”と答えたのは約半数。“だいたい”も合わせればほとんどの方が薬の名前を覚えて

Q. 処方されている薬の名前を きちんと覚えていますか？



いるようです。一方で、“覚えていない”方は14%と、7人に1人がよくわからず飲んでいる現状も浮き彫りに。さらに、処方された薬剤について、情報提供や指導を十分に“受けていない”と答えた方は、4人に1人いらっしゃいました。

新薬と後発医薬品の選択については、自主的にどちらかを選択しているのは3人に1人。約4割は、“どちらを選んでいるのかわからない”とのことでした。

自由記述では、‘主治医から薬の説明を受けたことがない’、‘主治医が薬を決定するので拒否も変更もできない。信用するしかない’、‘処方された薬の選択理由

Q. 新薬と後発医薬品、どのよう に選択されていますか？

(複数回答可/n=412)

どちらを選んでいるか、 わからない	40%
自主的に後発医薬品を選択	21%
自主的に新薬を選択	14%
主治医、薬剤師に勧められて 新薬を選択	13%
主治医、薬剤師に勧められて 後発医薬品を選択	6%
その他	6%

Q. どのように調べましたか？

(複数回答可/n=358)

インターネットで	79%
主治医に聞いて	28%
薬剤師さんに聞いて	23%
専門の書籍など	16%
家族から	3%
知り合いから	3%
その他	4%

がわからない’、‘薬剤師さんは薬自体の説明はいいが、カルテを知らないので深い相談ができない’、‘副作用や長期服用のリスクについて知りたい’等々、たくさんの方が声を寄せられました。

●コメンテーター●

鈴木吉彦 (日本医科大学客員教授、
HDCアトラスクリニック院長)

ネット利用者が多いアンケートなので、「ネット検索し調べる」人が多いのは当然です。処方薬については、今後はGLP-1関連製剤についての検索が多いと思います。筆者は4月までに書籍を3冊出版します。執筆して思う事は、「書籍」には「哲学」「思想」「演出」や「志」を表現することができます。特に上記のようなパラダイムシフトを起こしうる新薬では、主治医の「哲学」を理解し、その上で相互理解のもと、服薬を受けるべきです。ネット情報は責任所在がない場合もあり得ます。利用者が多いイコール信頼性があるとは言えず、情報の質については書籍の勝る可能性に留意したいものです。